

高等学校地理歴史科における自ら学ぶ意欲を育てる授業実践 ー 自己調整学習の観点から ー

学籍番号 (209314)

氏 名 (大矢 海)

主指導教員 (糸井川 孝之)

1. 研究の目的と理論

現代社会は変化の激しい時代であり、こういった社会において生徒は、高等学校を卒業した後にも様々な事柄に対して「自ら考え、自ら学び続けていく力」を身に付ける必要があると筆者は考えている。本研究では、「自ら考え、自ら学び続けていく力」を身に付けるための前提として必要である「自ら学ぶ意欲」を地理歴史科の授業において育成することが目的である。そして、この自ら学ぶ意欲については、後述する基本学校実習や発展課題実習での経験をもとに「自己調整学習」の観点から、その中でもとくに「メタ認知」の力の育成に焦点を当てながら授業実践を行った。

「自ら学ぶ意欲」については、櫻井 (2019) の「自ら学ぶ意欲のプロセスモデル」を参考に研究を行っている。「自己調整学習」については、Zimmerman (1989) の研究を参考としている。また、自己調整学習には個人内における「予見」－「遂行」－「自己内省」の3段階の循環的なフィードバック・ループが存在し、発展課題実習における授業実践についても、この要素を授業のなかに取り入れながら、授業実践を行っている。「メタ認知」については、三宮 (2018) をもとに、本研究におけるメタ認知の分類や定義づけを行った。こうした能力を育てることは、国立教育政策研究所 (2013) が提唱している「21世紀型能力」において必要とされる資質・能力と該当している点が多く、意義があるものと考え本研究を行うこととした。

2. 基本学校実習での授業実践

実習校は、ICT環境が整備されているという特徴があり、生徒は一人1台自分のノートパソコンを所持している。基本学校実習では、授業観察などから授業において生徒自身が考える活動が少ないことやICT活用の方法が少ないことなどが課題点として明らかとなった。

こうしたことをふまえ、基本学校実習における授業実践では、ICTを活用し反転学習の要素を取り入れながら授業実践を行った。その際、書く活動を通して生徒の「論理的思考力」を育成することを目的に行った。

授業実践の結果としては、生徒の論理的思考力について、授業実践から得た情報だけでは大きな変化は見られなかった。しかし、実習校において新たな授業方法を提案することができたことなどの成果もあった。また、この実践を行うにあたって生徒の「自己調整能力」が不十分であったという新たな課題点も浮き彫りとなり、発展課題実習においては、「自己調整学習」に焦点を当てながら研究を進めていくこととした。

3. 発展課題実習での実践 I

発展課題実習では、基本学校実習での気づきや授業観察などから明らかとなった実習校の新たな課題点などをもとに、「自己調整学習」の中でもとくに「メタ認知」の育成と授業課題などを通して生徒の考え方に変化をもたらすことの2つを目的に授業実践を行った。その際、自己調整学習の要素をもとに、考えることが必要な授業課題や授業内容について生徒自身が振り返るために「本日の振り返りシート」などを取り入れ授業実践を行った。

授業実践の結果としては、授業実践後に行ったアンケート調査の結果などから生徒のメタ認知の力や考え方にいくつか変容の兆しが見られた。しかし、結果を判断するための材料が十分に得られなかったため、引き続き上記の目的のもと授業実践を行うこととした。

4. 発展課題実習での実践 II

第4章で行った実践についても、第3章での実践と同じく、「自己調整学習」の中でもとくに「メタ認知」の育成と授業課題などを通して生徒の考え方に変化をもたらすことの2つを目的に授業実践を行った。授業の形式や授業内で取り入れた活動についても引き続き行った。そのうえで、ICTを活用しながら生徒同士で協同してスライドを作成し発表するという新たな活動を取り入れながら、さらに自己調整能力およびメタ認知の力の育成を目指した。

授業実践の結果としては、授業実践後に行ったアンケート調査の結果などから生徒の考え方に変容が見られ、自己調整能力およびメタ認知の力についても向上したものと考えられる結果をいくつか得ることができた。また、「本日の振り返りシート」の有効性や授業におけるICT活用の新たな可能性を示すこともできた。

5. おわりに

本研究では、自ら学ぶ意欲が発現するための要素の一つである自己調整能力やメタ認知の力について授業課題や「本日の振り返りシート」を取り入れたことにより、授業実践開始前に比べると育成することができたのではないかと考える。自ら学ぶ意欲についても、授業の中で取り入れた様々な活動などから、以前よりも育成することができたのではないかと考える。

本研究を通して得た気づきや課題点をもとに、教員としてこれからも生徒の「自ら学ぶ意欲」を育成することを目指した授業実践を行っていきたいと考えている。